



Meridian 180 フォーラム

災害管理における「現地固有の知」と コミュニティ参加

災害は、かつてないほど頻繁かつ深刻に私たちに影響を及ぼしています。人命救助、被害軽減のためには「現地固有の知」は欠かせない資源であり、あらゆる災害対応に活用されるべき能力でもあります。本フォーラムでは、「現地固有の知」が災害対応においてどのように取り入れられ、利用されてきたかを議論し、コミュニティ参加を通して「現地固有の知」を認識し、再検証するためのさまざまな方法を探求します。



Northwestern
BUFFETT INSTITUTE
FOR GLOBAL AFFAIRS

MERIDIAN180

2023年1月26日

10:00-13:00 (大阪、ソウル) 06:30-09:30 (ニューデリー)

08:00-11:00 (ジャカルタ) 09:00-12:00 (北京、マニラ)

2023年1月25日

19:00-22:00 (シカゴ)

Zoomによるオンライン開催

使用言語:英語

(中国語、韓国語、インドネシア語、日本語の同時通訳あり)

下記フォームより
ご登録ください



<https://tinyurl.com/2flebz6h>

第1セッション

グローバルな知見と現地の知見が交差する 被災地コミュニティ

モデレーター兼
討論者



宮崎 広和

ノースウェスタン大学教授

マヌ・グプタ (Sustainable Environment and Ecological Development Society (SEEDS) 創設者 インド)
災害に強いまちづくりのための現地コミュニティネットワークの活用

ムハンマド・リザ・ヌルディン (立命館大学アジア・日本研究所客員研究員、日本)

インドネシアの災害復興における信仰基盤組織と社会資本

キャロライン・リーブズ (ハーバード大学フェアバンクスセンター研究員、アメリカ)

歴史的ナラティブと教訓:20世紀初頭の中国における疫病問題

第2セッション

コミュニティ参加を通じた「現地固有の知」の認識に 向けた学際的方法論

モデレーター兼
討論者



廣野 美和

立命館大学
グローバル教養学部教授

モリツ・マルチュケ (立命館大学グローバル教養学部准教授、日本)

災害後インドネシアにおける社会資本の定量化:
AIを用いた言語モデルアプローチ

ジャン・パウエル・マルケス (立命館大学グローバル教養学部准教授、日本)

災害リスク軽減における生態系アプローチ:マングローブの保全と再生

ダニエル・ホートン (ノースウェスタン大学助教、アメリカ)

イリノイ州シカゴにおけるコミュニティベースの参加型調査を通じた熱
脆弱性に対するレジリエンスの構築



登壇者



マヌ・グプタ

Sustainable Environment and Ecological
Development Society (SEEDS) 創設者



ムハンマド・リザ・ヌルディン

立命館大学
アジア・日本研究所客員研究員



キャロライン・リーブズ

ハーバード大学
フェアバンクスセンター研究員



モリツ・マルチュケ

立命館大学
グローバル教養学部准教授



ジャン・パウエル・マルケス

立命館大学
グローバル教養学部准教授



ダニエル・ホートン

ノースウェスタン大学助教